

2010(H22).05.09

関東大会県予選の5位決定戦は43－26で合同Cに勝利

(残念！！今回はカメラマン不在のため、写真を掲示できませんでした。m(_ _)m)

5月9日(日)水戸農高Gで関東大会県予選の5位決定戦が行われ、日立一高は、前半24－26、後半19－0の、計43－26で、合同C(土浦一、つくば国際、牛久、東洋大牛久)チームを破りました。

合同チームとは言え、東洋大牛久高を中心としたメンバーは、2回戦では水城高校を33－0で破っており、侮りがたい相手です。ここは、単独出場校としてのプライドに賭けても、落とすわけにはいかない一戦となりました。

前半キックオフ直後、FWがラックを連取してBKに展開、FBが相手ゴール前に迫り、FWのサイド攻撃でトライ、ゴールも決まって珍しく？幸先のよいスタートを切りました。(7－0)

その後も、キックオフディフェンスには難があるものの、7分・10分とFW・BKがトライを連取し、前半の前半で(17－0)と点差が開き、勝負あったかと思われた矢先、ここからリズムを崩します。

ミスキック、キックオフでのノコン密集でのオフサイドや不用意なハンドの反則など、毎度の自滅パターンが出てしまい、16分に相手FWにトライを許します。(17－5)

その後CTBがトライを奪い(24－5)としますが、ここから27分・29分・33分と3連続トライを喫し、前半終了時には(24－26)と逆転されてしまいました。特に33分のトライは既にロスタイムに入っているため、冷静に判断してタッチキック等でプレイを中断すればハーフタイムとなるところを、無理にプレイを継続して逆襲されたものでした。

ハーフタイムでベンチに戻ってくる選手たちは意気消沈した様子。しかし選手たちは監督・OBからの指示・激励を受け、約5分間の中で気持ちを切り替えて、後半はよりシンプルなラグビーに徹しました。

後半4分、敵陣22mライン付近のラインアウトを一気に押し込みトライ、まずは逆転(29－26)です。その後も前半影を潜めていたキックで敵陣に攻め込んでFWがラッシュをかけて14分・21分とトライを重ね(43－26)、後半はほとんどを敵陣で戦う安定したゲーム内容となりました。

前半と後半の違いは何か・・・キックオフやラインアウトでのミスがなかったこと、キックを有効に使い常に敵陣で戦ったこと、常に攻撃を仕掛け・継続したことによりディフェンスの時間が短かったこと、相手方が合同チームゆえに後半を走りきる体力がなかったこと、等々が挙げられますが、自分たちのペースで、これまで練習してきたプレイに徹したことが、一番大きかったのではないのでしょうか。

この関東大会予選では、4試合を戦って5位入賞と、当初の目標を達成することができました。

正直なところ、上位4チームとの地力の差は小さくありませんが、今後の「伸びしろ」は我がチームが一番大きいはず。現状に満足することなく、まずは勝田工業に新人戦でのリベンジを果たして県立高校1位の座を奪回するとともに私立4高の一角を崩すべく、今後一層の努力と精進を期待します。(私たちOBも全力で支援していきます。)